

金沢中央公民館

ふるさとの

かたりべ

第八集



嘉瀬奴踊り歌詞「タタラビ花」

発行 嘉瀬ふるさとを探る会



タタラビ花コ

裏のかくじの タタラビ花コ

昼間しおれて 夜に咲く



嘉瀬の奴踊り唄の一節で、かたりべ第五集の紙上討論の課題として「タタラビ花コ」の歌詞の意味するものは？また、どんな花だろうか。と出された。五人の会員からそれぞれユニークな意見、迷言などが出されて

いる。
さて、タタラビの花
は「ウマノアシガタ
(馬の脚形)」という
ことになったが、で
は、ウマノアシガタと
はどんな花なのか。

▼キンポウゲ科▼分布：日当りのよい山野に自生する多年生草木▼特徴：根茎は、短くひげ根がある。茎は上向きの毛が密生している。根生葉は掌状に三深裂している。各裂片の先はさらに二〜三浅裂している。縁は切れ込み、上にゆくほど線形全縁となる。夏、分かれた枝頂に一個ずつの黄色五弁花をつける。花弁は倒卵形で花径1.6〜2cmばかりでキツネのボタンの二倍ある。果は多数集まってほぼ球形の集果で、一つの果はふくらみ先がとがっている。▼別名：コモノアシガタ(駒の脚形) またはオコリオトシ(瘡落シ)の別名がある。オコリオトシは瘡(マラリヤなどの熱病)の治療によいとして名づけられたようだが、詳しくは不明である。▼薬効：民間療法では、関節リュウマチや歯痛に飯粒と練って塗る。(近藤嘉和「四季の山野草より」)写真は、雲雀野の水田地帯に群生していたのを発見、田播時に写したものである。

私たちが子供の頃、「セリ」を採るに行くと、セリに似て異なる草が畦畔や小川の縁に生えているのを毒ゼリと云っていたが、それはキツネノボタンで、ウマノアシガタと同じキンポウゲ科で、漢名は両方とも「毛茛(モウロウ)」という。
近年水田は土地改良事業などにより植生がすっかり変わってしまい、ウマノアシガタ、キツネノボタンも少なくなり、群生の場所は珍しくなった。

|| 山 中 正 津 ||

「貴重な文化財を大切に」



金木町教育委員会

委員長 浜田君春

「かたりべ第七集」をよませてもらいました。
一行一行の文の中から、なんとも言い表わせない、心豊かで、温いものを感じさせてくれました。

昔の人々や、古老との話し合いを大事にして、ほそぼそと小さい足跡までも、一つ一つ探り出し
平易な表現で、綴りつづけているのに感動し、感銘をうけました。

また、皆さんが、数少ない資料や、文献を精査し、広く深く、綿密にさぐり当てる情熱と、なん
のこだわりもない真摯な姿勢が、喜びと共に、私たちを「かたりべ」の中の一人として引きつけてく
れるのです。

日頃のご苦勞に、ただただ頭がさがり、胸のいたむ思いがしてなりません。
そしていきいきとたゆまない歴史の鼓動と、貴重な文化財を大切に、古いものと、新しいもの
を、心と生活の中に共存させながら、更に新しいものを求め、心の糧として再確認することが、
必要と思います。

田の面がどこまでもそよぎ、水清く、山美しいわがふるさと、懐しい幾多の思い出を胸にいただき
め、町づくりと、人づくりに汗を流して、力強く拓けゆく未来に向けて、一層のご活躍をお祈り致
します。

かたりべ 第八号 — 目次 —

表紙……タタビラ花コ
解説……山中正津

〈巻頭言〉 貴重な文化財を大切に……金木町教育委員長 浜田君春 (1)

特別寄稿 ふる里の学び舎 (旧嘉瀬小学校) ……湯本正美 (4)

〈古文書〉 宝歴八年の嘉瀬村・小栗崎村・中柏木村田畑高反別帳 ……木村治利 (9)

嘉瀬の風俗習慣 ……秋元惣之進 (17)

川は流れる ……山中正津 (27)

集会 ふるさとのつれづれ草 ……木立民五郎 (31)

愛郷会と青春と戦争 ……小山内嘉一郎 (33)

愛郷会々員になりて ……沢田薫 (35)

水 難 ……原田万治 (43)

運動会 ……木立久二 (25)

津軽方言詩ぶどうの候、秋の腹 ……沢田薫 (60)

疣取りと虫歯を治す大石様 (石仏) ……秋元惣之進 (42)

嘉瀬の古木「イタヤ」 ……山中長三郎 (26)

河童(かっぱ) ……(68)

神佛混淆御仕分に関する御布令 (津軽地区) ……(45)

遊ぶ 小山内漫遊上人を想う ……湯本正美 (46)

偈 叔父小山内漫遊について ……小山内嘉一郎 (47)

漫遊 伝記の人小山内漫遊 ……木立民五郎 (49)

人形芝居 ……原田万治 (53)

小牧野遺跡雑感 ……木村治利 (61)

柿本人麻呂の伝記 (下編) につつき ……外崎三千男 (66)

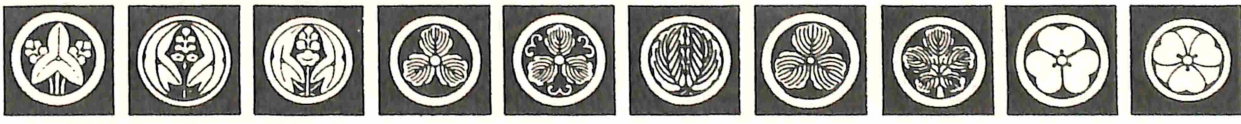
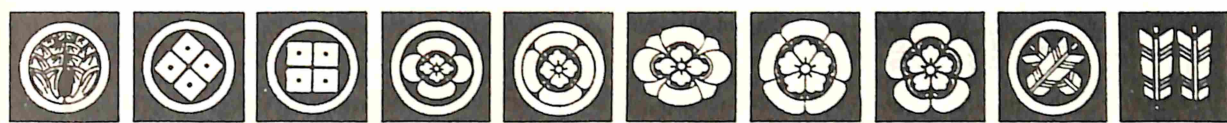
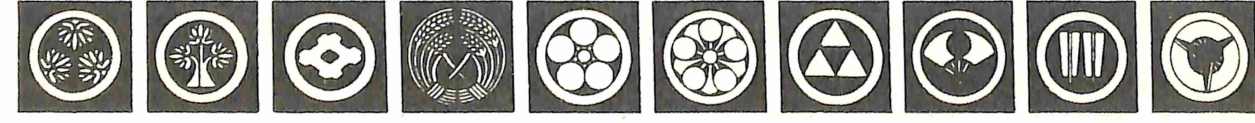
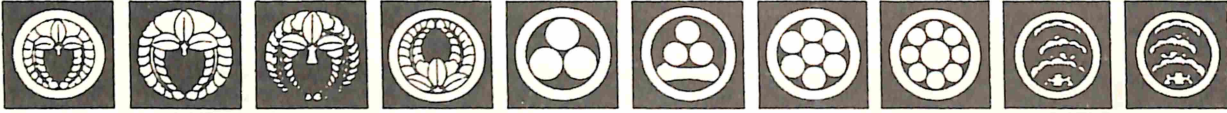
村のできごと ……(69)

津軽の殿様へ小判一千両の貸金催促 …… (16)	馬がかりと村がかり …… (60)
米作百万石越すか …… (16)	金木村が町に昇格 …… (71)
米価下落の対策に県農会が決議出す …… (16)	馬力大会のはしり …… (72)
森林鉄道転覆死傷者三十人 …… (34)	金木競馬場開設 …… (72)
民謡で世界行脚を小山内漫遊君の計画 …… (51)	県内で一時間ごとに四人生れ二人死ぬ …… (72)
嘉瀬村に「桃地蔵」建立津軽民謡中興の恩人偈ふ …… (52)	お歳暮品の値段 …… (72)
ねり屋の女将が永眠 …… (41)	あまり高価な自転車 …… (74)
金木の旧正月 …… (30)	青森県に初の自転車 …… (74)

年号制定についての一考察 ……外崎三千男 (73)

タタビラ花コの再考を ……山中正津 (75)

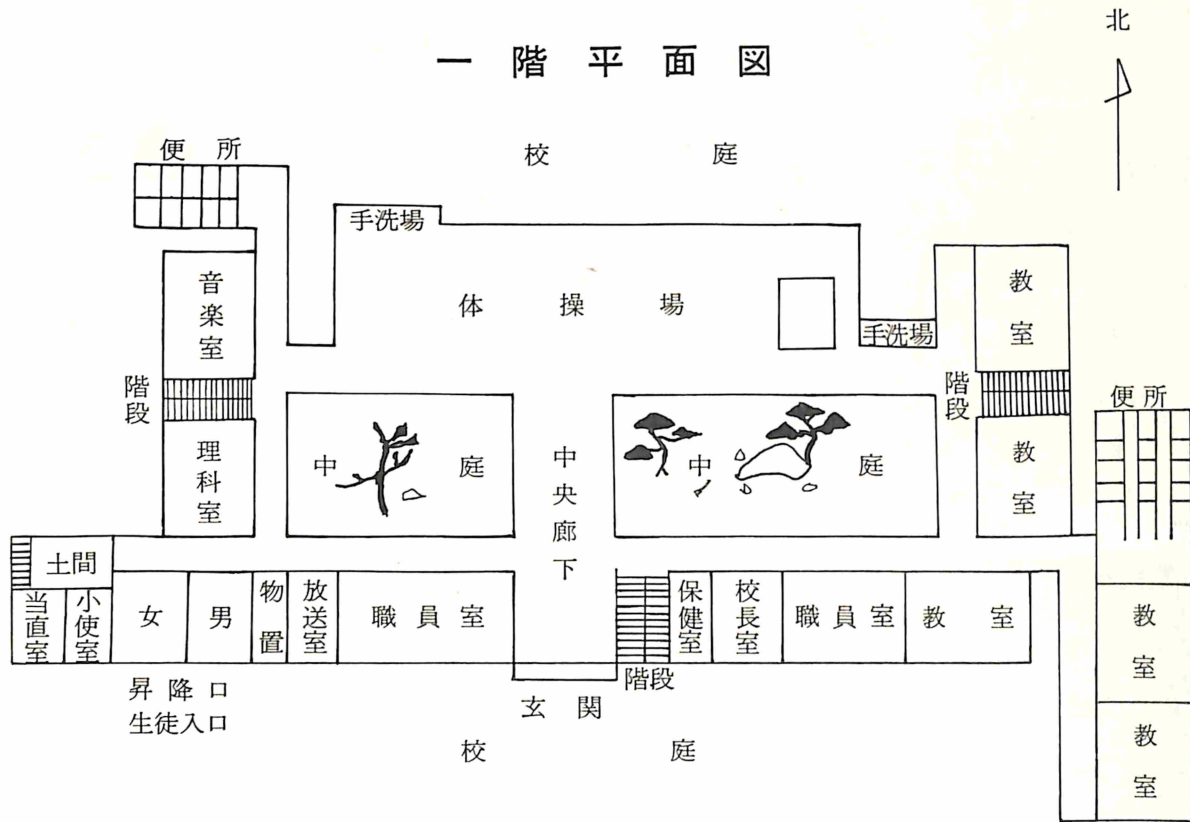
あとがき ……(76)



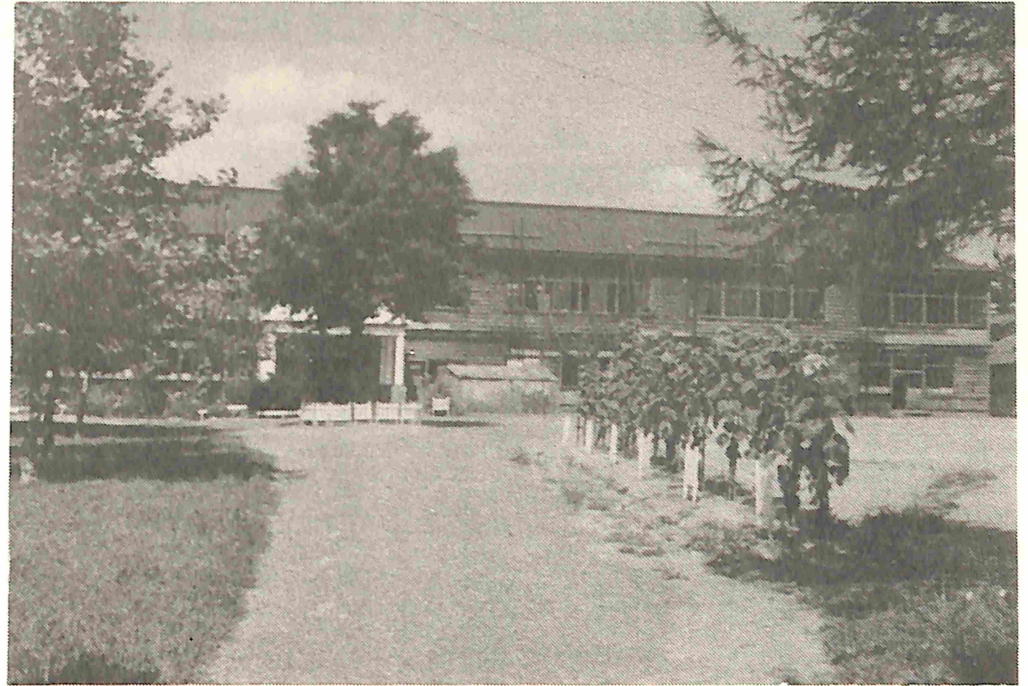
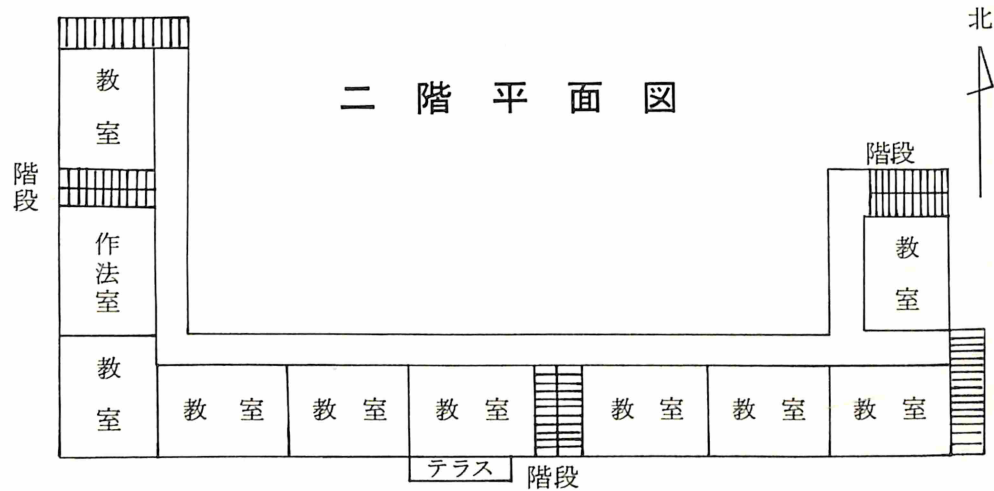
旧嘉瀬小学校

平面図

一階平面図



二階平面図



大正13年11月新築 旧嘉瀬小学校
昭和48年4月解体

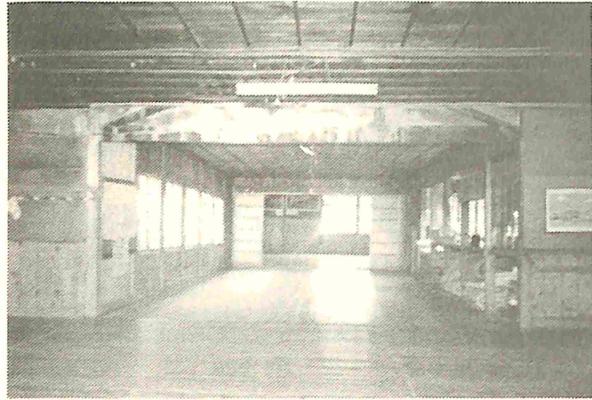
特別寄稿

懐かしきふる里の学び舎

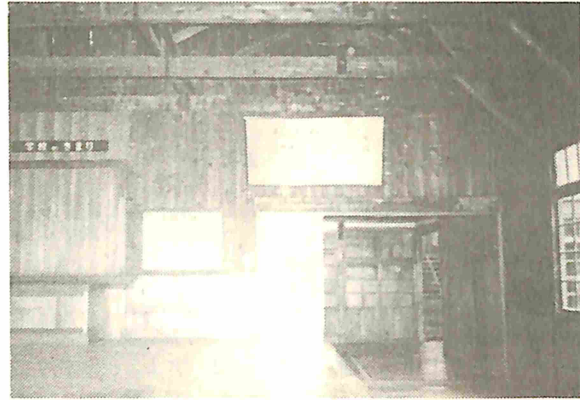
旧嘉瀬小学校は大正十三年十一月現在地に落成移転し、昭和四十八年四月老朽により解体されるまで、実に五十年、嘉瀬村民の唯一の教育の場であった。五十年間における小学校卒業生は実に四千五百三名にのびりました。

第二次世界大戦の中、そして戦後、当時の児童は食糧不足のひもじさに泣き、厳しい労働に苦しみ、貧困に悲しみながらも、じっと耐え、激動の嵐を乗り越えてきました。したがってこの校舎からよみがえる懐かしい思い出は、一汐です。

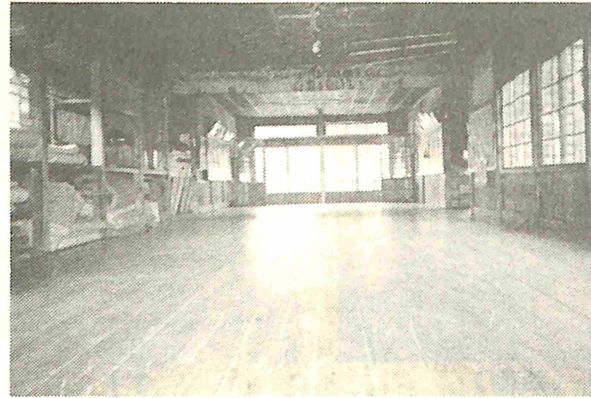
東京都 湯本 正美
(嘉瀬出身)



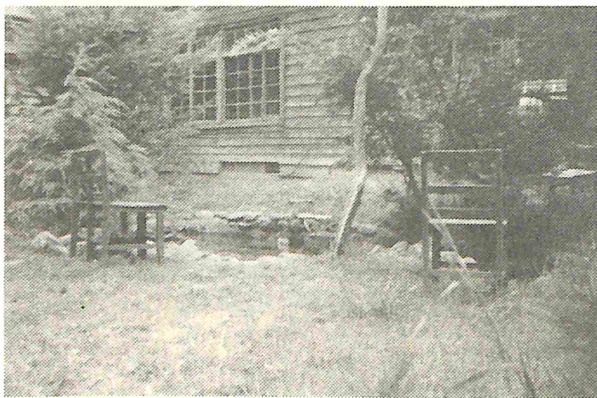
中央廊下から体操場を見る



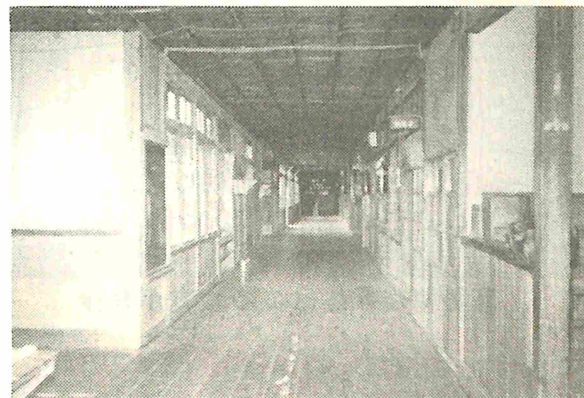
体操場から東側廊下



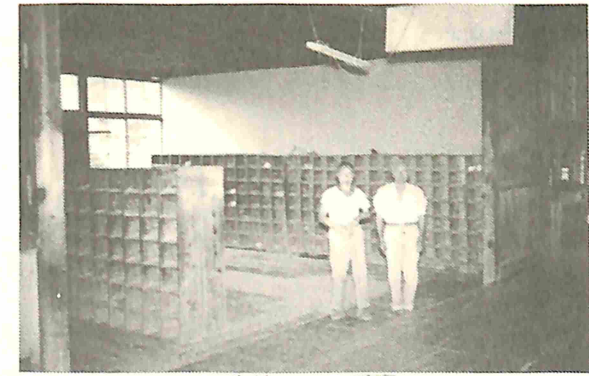
中央廊下から玄関をみる



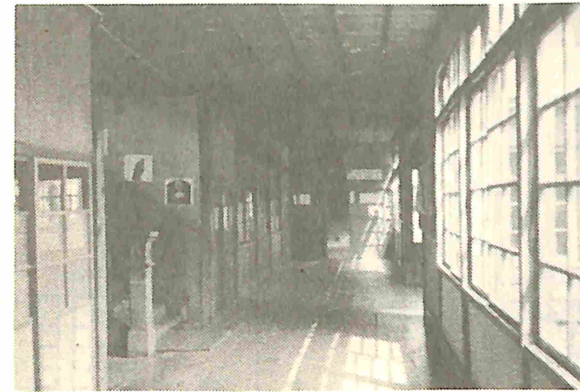
中庭



下駄箱から職員室に（右側）



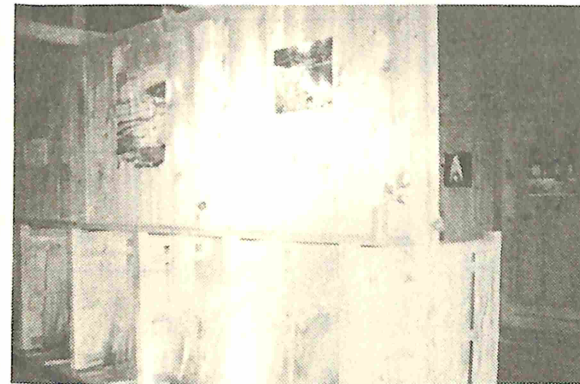
生徒入口下駄箱



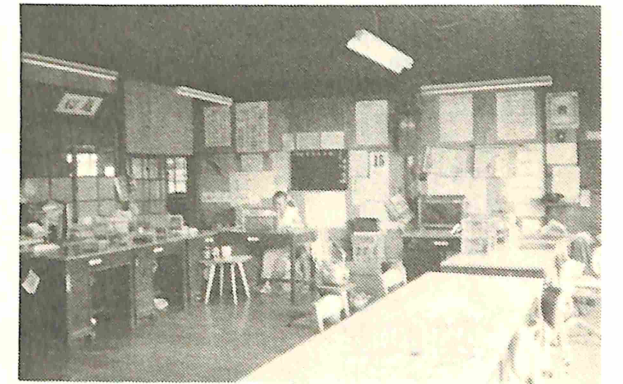
理科室より便所を見る



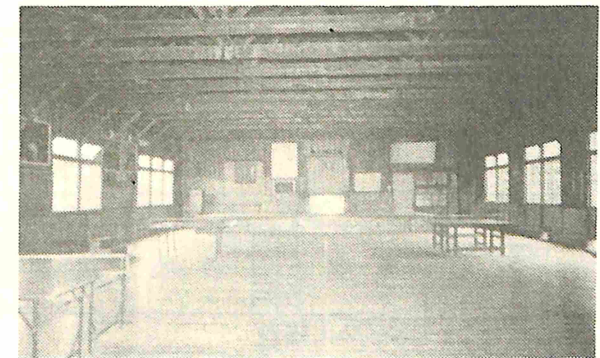
校長室



便（北側）所



職員室



体操場

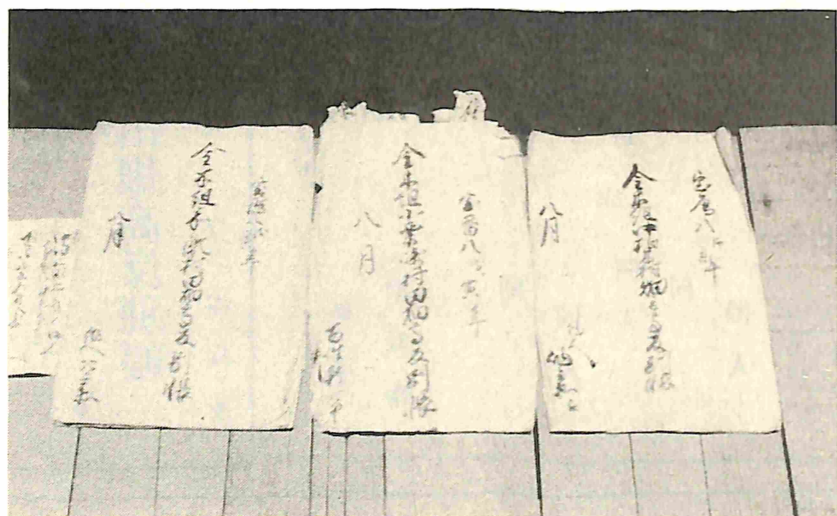
古文書

宝歴八年（一七五九年）の

嘉瀬村・小栗崎村・中柏木村

田畑高反別帳

木村治利

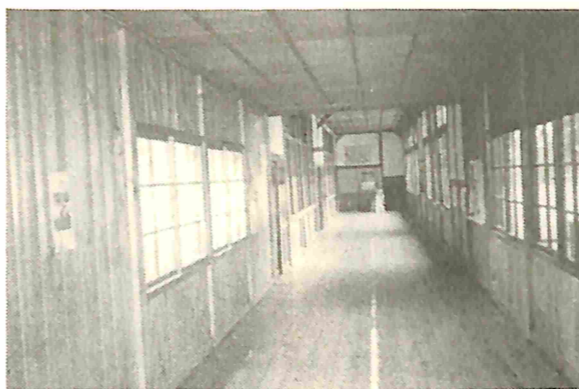


田畑高反別帳

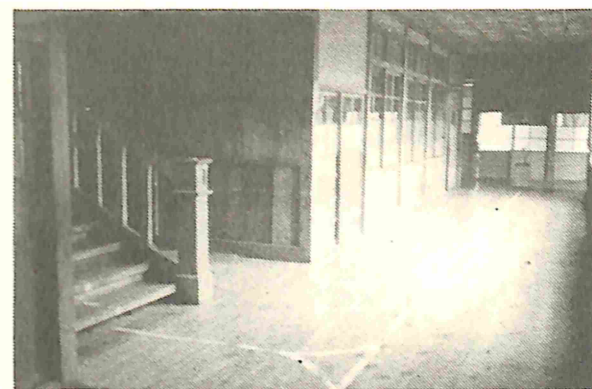
昭和六十三年四月、嘉瀬木村治義宅（筆者実兄）から宝歴八年（一七五九年）八月の「嘉瀬村、小栗崎村、中柏木村田畑高反別帳」三冊や、借用証文など、多数の古文書が見つかった。金木町郷土史によると、「嘉瀬村の木村家は、元禄五年（一六九二年）から享保二年（一七一七年）まで金木組三代目代官をつとめた木村六右衛門（のち嘉瀬村に隠居）を始めたとしている」と記されている。

昭和六十三年四月実母が死去し、遺留品の中から小箱につまった古文書が多数出てきたのである。父が死亡して十二年間、母は父の形見としてこっそり自室の片隅にその小箱を隠し持っていたのである。

又、金木町郷土史には、嘉瀬村の田畑高反別帳鳴海勲氏所蔵の「宝歴八年、嘉瀬村田畑高反別帳が記録されており、嘉瀬村には、このほか「宝歴八年の反別帳」が誰かに所蔵されているものと思われる。



1F 廊下（便所）



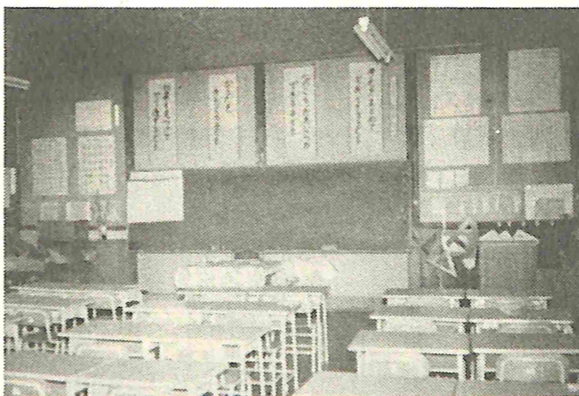
1F 東方廊下



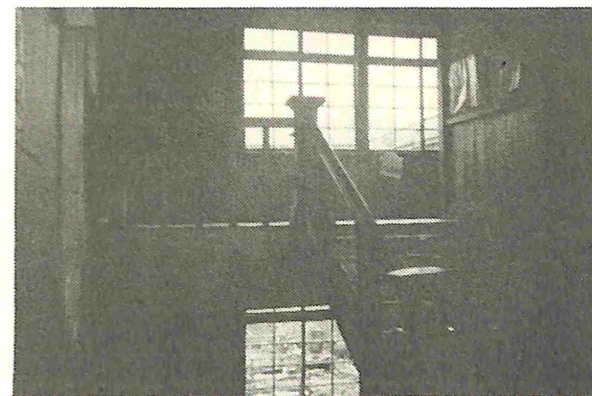
2F 中廊下（西側）



2F 中廊下（南側）



高等科卒業生はこの教室が最後



西側の二階への階段

